

## 2020年度神戸大学後期日程 入試問題『出題の意図・評価ポイント』

### 小論文（国際人間科学部学部グローバル文化学科）

- ※1 この『出題の意図・評価ポイント』についての質問、照会には一切回答しません。
- ※2 配点（素点）は入試問題に記載してあります。  
なお、本学入学者選抜のための教科・科目ごとの配点については、2020年度神戸大学学生募集要項を参照してください。

#### 【出題の意図・評価ポイント】

問1 課題文の著者の論旨を正確に読み取り、簡潔に論理的に説明する力を問うた。文中の「根本的矛盾」の指示内容として、何と何とが矛盾しているのかを明確に説明できているかを評価のポイントとした。

問2 課題文の中で鍵として使用されている概念を正確に読み取り、論理的に説明する力を問うた。第一の境界と第二の境界の二つの境界が使い分けられることによって生まれる「両義的存在」とはどのような意味か、また「両義的存在」に着目することがなぜ不可欠なのかを明確に説明できているかを評価のポイントとした。

問3 課題文の著者の論旨を正確に理解した上で、歴史や現在の国際情勢など、本学科の学生として必要な知識及び問題関心に基づいて具体的な事例を挙げつつ、著者の論旨に対して自分なりの賛否の議論を構築する力を問うた。著者の理解によれば、「シャルリー・エブド事件」は、アルジェリア系フランス人という「両義的他者」によって引き起こされたテロ事件である。こうしたポストコロニアル状況に関する著者の主張を正確に理解しているか、著者の認識に受験者自身がどのような点で賛同できるのか、あるいは反論できるのか、またその根拠として歴史上の、あるいはメディアを通じて日常的に見聞きしている現在の国際情勢上の具体的な事例を的確に例示できているかを評価のポイントとした。